

わくわく ほっと二日市

Vol.2



ほっと二日市
NPO法人
の設立

◆コラム
「病院とまちづくり」
「大型流通店
と地元商店街」
◆各実行委員会の
活動報告

NPO法人の設立

NPO設立担当 茂田和紀

筑紫野市の中心市街地は、商業や公共施設、医療機関などの都市機能が集積した環境にあるものの、今日における消費者ニーズの多様化や郊外化等によって、活気が失われてきています。

各都市が独自の魅力づくりを志向するなかで、本市においても歴史や文化の蓄積があり、都市機能も充実した中心市街地を見直すことが必要となっています。

これまで筑紫野市が平成14年に中心市街地活性化基本計画を策定、さらに、平成17年には筑紫野市商工会が行政、市民・商業者の参画を得てTMO構想をまとめ、取り組みが進められてきました。

今後は、これらの取り組みをさらに具体化させていく必要があります、そのためにも商業者だけでなく市民を含む多様な主体が参加できる組織づくりを進めてい



NPO 法人設立総会開催される

11月26日(水)ほっと二日市の NPO 法人設立総会がほっと二日市の事務所で開催されました。午後7時30分に司会の坂本副代表により総会参加者32名、総会成立宣言があり、総会が開始されました。古野代表の開会挨拶があり、議事にはいり議長選出、議長に下成正一氏を選出し議事にはいりました。最初に古野氏より NPO 設立趣意書に関する説明があり、筑紫野市の市街地活性化基本計画ならびに TMO 構想などを基本として、二日市の中心市街地を活気のあるまちづくりを目ざし商店主、一般市民、学生など誰でも一緒に活動できる組織として協働のまちづくりを目ざすために NPO 法人を設立することとなったとの説明がありました。次いで、定款、入会金、事業計画、収支予算、役員を選出など具体的に議事が進められ、



くことが求められています。

そこで、平成18年から、市民・商業者・学生など活性化に意欲をもった者が集まり、まちづくりを進めていく体制について話し合い、拠点づくり、情報収集・提供、PRイベントなど、自分たちで出来ることから活動を始めました。

今まで2年余りにわたっていろいろな活動をしてきましたが、この取り組みが従来の行政や商店街だけでなく、性別、年齢に関係なく、誰でも一緒に活動できる組織として発展させ、協働でまちづくりを進めることを目的として、このたびNPO法人として設立するものです。

今後も活動を続けていくにあたり、いろいろな難題にぶち当たるかも知れませんが、私たちは常に「行政や商店街だけでなく、市民も一緒に中心市街地活性化のためのまちづくりを進める」ということを念頭に、今後も頑張っていきます。

会員各位のご協力をよろしくお願いします。



最後に設立代表者が選任され、白熱した設立総会は午後8時30分に終了しました。

◎役員紹介

- ・ 理事長 古野通照
- ・ 理事 渡邊クニ子
- ・ 理事 池田昌太
- ・ 監事 今嶋達郎



病院とまちづくり

愛心会二日市病院 今嶋達郎

ほっと二日市の活動に加えて頂いて、色々な方とお会いする機会が増えてきました。ただそこで私が医師であること、特に病院の勤務医であるとお話すると、意外に思われることが多いようです。私共はいわゆる“商業者”では



ありませんが、病院としても地域と一体となって活動したい、私たちの元気が街の活性化につながるような形で努力したい、そして街の活気で患者さん達を元気にしてあげられたら、との思いで今年度から仲間に加えて頂きました。患者さん方は病を得てその人生の一時期を病院で過ごされる訳ですが、それを病院という限られたスペースではなく、地域として受け止めてあげられたら、この町で暮らす一員と思って頂けたら、そしてその町が活気にあふれた“ほっと”な町であったなら、どんなにか癒されることでしょうか。

医療が地域の患者さんへ提供されるものである以上、医療そのものの本来の姿が“地域医療”であるはずですが。また国の財政や地域経済が厳しさを増していく折、医療業界も決して例外ではありません。今度始まった特定検診の内容を見ても分かる通り、国の方針としても提供する医療の主眼を予防医療へとシフトしていく中で、地域の健康を支える気概のない病院は、退場しなさいということでしょう。その意味で医療もまた、地域との結びつきなくしては成り立ちえないのです。

先日ほっと二日市の会合に参加するため病院を出ようとしていたら、うちの職員から「今から“ほっともっ”ですか。」と声をかけられたことがありました。さすがに最近はそのようなことはありませんが、ほっと二日市も、まだまだ内外ともにその存在と活動をアピールしていかなければなりませんね。今回の NPO 法人化はその一つの契機になるでしょうし、合わせてこのような地道な広報活動を続けていくのも、大変意義深いことだと思います。

二日市の街づくりの輪をさらに広げていけるよう頑張ります。

大型流通店開店と地元商店街

中村純治

まちづくり三法の見直し

認定基本計画による
中心市街地振興、

郊外集客施設のコントロール
と中心市街地への誘導



中心市街地活性化法

都市計画法

まちづくり3法は、都市計画法、中心市街地活性化法（中活法）、大規模小売店舗立地法（大店立地法）の総称です。2006年5月に都市計画法と中活法の改正が行われました。都市計画法改正では床面積1万㎡超の大規模集客施設の郊外への出店を大幅に規制しました。中心市街地活性化法改正では、都市機能の集約と中心市街地の再生に意欲的な自治体を支援することにしています。この法律のねらいは大型店舗の郊外出店を規制して、市街地における中心商店街の衰退を食い止めることにあります。

この法律は新たな出店計画に適用され、既に計画されたものは実施されています。我が筑紫野市では2008年12月5日にイオンモール筑紫野が開店されました。7万5千㎡の商業施設面積、4万㎡の店舗面積に180店舗が出店しています。既存のゆめタウン筑紫野、筑紫野ベレッサ、シュロアモール筑紫野との流通における戦いも予測されます。その中で地元商店街も良かれ悪かれ影響されることと思われます。

地元商店街にとっての生き残り作戦は大型店舗の開店をチャンスと捉え、大型店舗が呼び寄せる新規顧客を取り込む作戦に転じるか、大型店舗とは差別化を図った独特の戦略を採るしかありません。

では、独特の戦略とはどのようなものがあるでしょうか。例えば、色々な教室を開いて「作る喜び」を与えたり体験コーナーを開いて「体験する満足感」を与えたりとか、製造工程の見学コースを開放し「見える生産者」を目指すとか、大型店に出来ない「機動的なイベント」を開催するとか、各店舗が独自にまたは連携して工夫を凝らす必要があるでしょう。「継続してきて良かった商店街」を目指して共に頑張っていきたいものです。

実行委員会の活動

2008 七夕祭り

坂本誠二

7月27日から区商店街に七夕飾りの設置を初め、8月2・3・4日ふれあい広場に於いてバザーほかのイベントを行いました。設置した竹飾りに対する苦情や、飾りに放火等も出ませんでしたし、商店街に季節感や華やぎを演出でき、商店や買い物客の皆様喜んでもらえたと思います。ふれあい広場では愛心会病院の『健康相談コーナー』をはじめ、朝市メンバーの出店、大手『和民』さんの参加、スタードーム製作のCATとの連携も含めて、雰囲気は良かったのですが、来場者の数が期待程ではなく、新聞チラシ・公報・回覧板だけの告知には限界を感じます。自治会・子ども会などとの連携や、参加型のイベントが必要かもしれませんし、開催時期も、中央通や八幡宮の夏祭りとの同時開催も一考かもしれません。最後に、CAT、朝市メンバーの方々、市役所商工観光課の方々、愛心会病院のスタッフの皆様には厚くお礼申し上げます。



シンボルストリート

池田昌太



本年のシンボルストリートは、二日市中心市街地商店街活性化がよろう会と連携して活動しました。シンボルストリートについての紹介や、点字ブロック着色の社会実験を行い、かつ実験結果を踏まえて改善して行きます。まちを保全したり、大切にしている行動を起こしておく事は今後の活性化において、他組織の理解や援助を得る為に役に立つと思います。商店に共通のフラッグを設置する事やイベント用ののぼり、また休憩場所の設置なども行います。

第1回アート市を終えて

黒木伊津子・仲山みちこ

みんなの協力を得て、第1回アート市を開催することが出来ました。本当にありがとうございました。心配していた雨も降ることなく小春日和の中、大勢の人に来ていただいて、町中が「ザワザワ・ガヤガヤ」店主から「久しぶりに人がいっぱい歩いてるのを見たよ。」「客がいっぱい来てくれたよ。」「こんな催しは毎年してほしい。」の声に「ほっ!」とすると同時に2回目開催に向けて大きな自身になりました。

全国からアーティストが、客が集まる大会にしたいと夢は大きく・・・1回目の反省をふまえて2回、3回と続けて行きたいと思っています。

終わった後、「次回するときはぜひ声を掛けて下さい」とアーティストの声も聞き、2回目はもっと楽しい大会にしたいと思案中です。2回目もご協力をよろしくお願ひいたします。



フラダンス、親父バンド (オータムフェスタ)

下成正一

ほっと二日市として商店街のオータムフェスタを盛り上げるイベントを企画しようとの話し合いの中から、今、静かなるブームとなっているフラダンス、団塊の世代を中心とした親父バンドを通じて市民・商店街の人たちと交流をはかり、心と心の触れ合う手作りのイベントを企画しました。当初、フラダンスは参加団体・参加者の人数などいろいろと問題点が発生しましたが、フラダンスサークル指導者の方と話し合いを持ち、今回は二日市地区の公民館、二日市コミュニティセンターなどで活動されている6チーム48名の皆様に参加していただきました。親父バンドは西鉄通り商店街の山下氏を中心に活動されている「にわかベンチャーズ」の皆様に出演していただきました。当日は天候にも恵まれ、用意した客席は満席状態となり、特設の舞台上でフラガールの皆様が音楽にあわせて色鮮やかな衣装をまとい踊るフラダンスに会場から大きな拍手が起きました。また、親父バンドの懐かしいベンチャーズの曲に



昔を思い出し、曲を口ずさみながら踊りだす人もでてきました。今後もフラダンスなどのイベントを通して、元気の出るまちづくりを地域一体となり推進をしてまいります。

ほっとキラッと二日市 2008

東 徹太郎

「ほっとキラッと二日市 2008」は昨年以上にパワーアップして二日市の夜をイルミネーションで彩ります。

まずがんばろう会事業のイベントとしてイルミネーション・コンテストを開催します。参加チームがおもしろおもしろのイルミネーション作品を作り上げ、商店街のあちこちに飾ります。皆さんは商店街のイルミネーションとともに、コンテスト作品も楽しみながら街を散策してもらい、気に入った作品に投票して貰う仕掛けです。

そして12月19(金)、20(土)の両日は中央通り商店街とタイアップして「パープルナイト」イベントを開催します。中央広場にメインとなるイルミネーションを飾り、その中にはゴミのリサイクルも兼ねたペットボトルで製作したイルミネーションも計画中です。

またコンサートなどさまざまな催し物もおこなわれますので、二日市はサンタがあふれた寒さを吹き飛ばすホットな夜が演出されることでしょう。ぜひ恋人と、家族とそして大切な人との夜を二日市でおすごしてください。



ボランティア会員からの一言

ボランティアのひとり言

大西正則

私がボランティアをするようになって、早いもので6ヶ月間が経過します。「ほっと二日市」がオープンしたことを昨年の5月に西日本新聞で知り、大変興味深く活動の様子をうかがっていましたが、サラリーマン退職を機にお手伝いすることになったものです。

感じたのは、1年半では難しいのですが「ほっと二日市」の存在があまり知られていないことを、誠に残念に思っています。「無料休憩所」・「トイレ有」・「お気軽にお立ち寄りください」とは看板にあるものの、前を通

る人たちは、覗いては行くものの何屋さんだろう？中に入ったら何か売りつけられるのではという風な警戒からなかなか入ってきけません。ホームページ・イベント・ギャラリー・パソコン動画教室・似顔絵等、地道な取り組みが必ず実を結ぶとは思いますが、あそこに行ったら楽しいよ、いろんな地域の情報があるよ、話し相手がいるよ等々、一日も早く存在が地域の皆さんに認められ、魅力ある場所になるように願っています。



ほっと二日市ものづくりアート市から

ボランティアの熊五郎と永富千枝子

今年(10月24/25日)の2日間開催された二日市中心市街地活生化と空店舗を利用したイベント「二日市ものづくりアート市」では、ふれあい広場で開催されたフラダンスの発表会やオヤジバンドコンサートなどもあり、お天気も味方したのでしょうか多くの方にご来場頂きました。



イベント終了後、ポスター貼り協力店さんへお礼の挨拶を兼ねポスターをはがしていたら「成功して良かったね」

と商店街の皆様から声をかけて頂きました。

その一言が「ほっと二日市の活動をしていて良かった感じた瞬間でした。」

パソコン教室について

IT 商店街担当：松田政博



7月からパソコン教室を開催しています。(木曜日を除く毎日12時～17時)

一般のパソコン教室では、まだ理解出来ていないのに授業がどんどん進む、受講人数が多くなかなか質問しづらいなど、受講してもなかなか身につかなかったりします。

この教室では生徒様のご理解の度合いに合わせて授業を進める少人数制の個別指導形式を採っており、一人一人丁寧にパソコンやインターネットの使い方を解説しており、パソコンを触るのが初めての方でも安心して受講頂けます。

商店街の方々も受講され、お店で使うPOP広告や会合の案内文書などを自分で作れるようになったと喜んで頂いており、商店街や近隣地域にお住まいの方々のITリテラシー向上のお役に立てればと思っております。

動画教室について

加治幸博

パソコンでの動画編集教室。毎週木曜日10～12時。



撮影したビデオ素材にBGMやスーパーを入れてDVDに！いずれは地域情報の動画をインターネット配信！パソコンやインターネットの基礎部分も交えながら

楽しく開催しています。



似顔絵コーナーについて

梶山奈実

似顔絵描きをさせて頂いております、梶山奈実と申します。2007年の秋に、山口県よりこちら筑紫野市へ嫁いで参りまして、それまで進めてきた絵の仕事をこちらでも活かしたら…と”ほっと二日市”のメンバーに加わりました。

似顔絵はほっと二日市サロンにて、第二2・4火曜日10:00～16:00に開催しております。価格はお一人様1000円です。(一部ほっと二日市の協賛金とさせて頂いております。)地域の皆様とお話しながら、楽しく輪を広げて行けたら…と思っています。気軽に声をおかけ下さい♪お待ちしております！



ほっと二日市の利用状況

渡邊クニ子

年間平均にすると、月に300人程度です。イベントのあった月は、100から200人程、増える感じです。一番に需要が多いのは、やはりトイレです。後は、休憩や待ち合わせ、それと道や、購入したい品物の販売されているお店のお尋ね等です。

更に、今年の6月からは、{ほっとギャラリー}を始

めることによって、作品を展示する方達も喜ばれ、鑑賞する方達にも、定期的に展示物が変わることにより、飽



きの来ない空間創りが実現することが出来る様になりました。定例会、分科会などのまちづくり会議にも利用しています。



紫プロジェクト

筑紫野市商工会

商工会では、和菓子をはじめ洋菓子・酒類・衣料品・農作物など紫色のものを筑紫野市の特産品として地域振興に活用していこうと「紫色をキーワード」とした「温泉と紫の街づくり」事業に取り組んでいます。

遠く奈良時代筑紫野市に自生していて税として献上していたものの、今や絶滅危惧種に指定されている紫草の復活を中心とするむらさきをはじめ紫米や紫いもの栽培とその活用に取り組んでいるところです。



12月には縁起物の紫米のわら細工の研修会を行います。さらに紫いもを原料としたお酒のネーミングとラベル作成にも取りかかる予定です。また来年度は、紫の食材を使った料理の開発や授産施設と連携して紫いもの栽培に取り組む計画です。

今は調査研究段階ですが、今後紫の農作物の生産をしていただける就農希望者を募集したり、新しい商品開発のアイデア募集など市民の皆様のご協力をお願いすることになります。よろしくお願いします。

“ほっと”今とこれから…。

KITA&TANI

「ほっと」に集まってくるメンバーは様々な方がいます。店主の方はもちろん、デザイナー・中小企業診断士・建築士・主婦・イラストレーター・病院の先生。

昼間は休憩所やギャラリーとしてボランティアの方々で運営していただき、夜はまちづくり活動のための作戦会議が行われています。

得意分野も・考え方も様々であるため、ひとつの議題がサラリと流れることの方が少なく、時には激論が交わされたりと毎週火曜日の定例会議はととてもにぎやかです。

この団体ができてから約2年、少しずつですが認知度も増し、活動を理解して参加してくれるなかも増えてきました。

市民と商業者・地域の垣根を越え、まちづくりについて語り、それぞれができることから楽しんで行動することをモットーに、広く地域に支えられる組織としてこれからも活動していけたらと思います。



変わり行く町の風景(本町通り)



大正15年(1926年)

大正時代の(株)大賀酒造の前通りです。現在、市道ですが、当時は国道(現在の国道3号線)でした。



現在

ほっと二日市は

ボランティアスタッフを

募集しています

お仕事は、ほっと二日市での留守番です。
本を読んだりして2時間くらい留守番をしてもらえると嬉しいです。

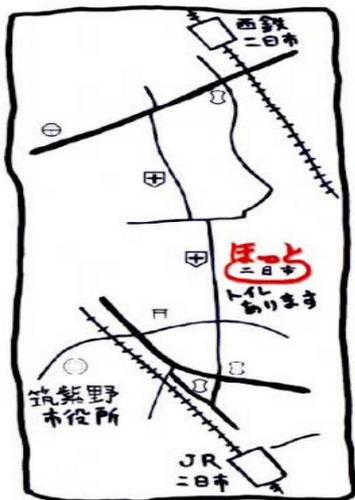
現在、10時(日曜日は12時)~17時に
オープンしていますが、留守番役が増えれば
ローテーションに余裕が出来、安定して
オープンさせる事が出来ます。

よろしくお願い致します。



無料休憩所で留守番をするボランティア会員

Vol.2 2008年12月発行



ほっと二日市は福岡県筑紫野市の二日市エリアを中心に活動しているまちづくりの団体です
街全体が元気になることが私たちの願いです
一緒に活動する仲間を募集しています

発行元:ほっと二日市広報委員会 広報担当 下成・中村・加治
〒818-0072 筑紫野市二日市中央 3-9-7 サイトウビル1F
連絡先 TEL/FAX 092-986-0289

URL : <http://hot-futsukaichi.com/>

Mail:wakuwaku@hot-futsukaishi.com